

太陽光発電事業の新市場  
培った実績とノウハウで攻勢をかける

# SOLAR

## 新たな可能性

# POWER

中堅上場企業のCO<sub>2</sub>削減へハウスメーカーのノウハウを活かしZEB提供 / 大和ハウス工業  
発展途上国の日系企業が進める太陽光発電導入をバックアップ / 丸紅  
長期安定運用で収益の最大化を目指しファウウェイの分散型パワコンを採用 / オリックス  
土壌汚染対策事業を中心に多様な環境事業・売電事業を展開 / エンバイオ・ホールディングス  
2019年度の出荷量約9GW。世界市場においてその存在感が光る / 世界No.1メーカーLONGi Solar  
地域主導の地産地消型再生電力で産業・地域を活性化 / 長野県  
別荘地に太陽光発電+宿泊施設で地域活性化へ / Looop  
電気主任技術者養成講座を開設 / 公認会計士・行政書士資格学校TAC  
PV電設・検査・洗浄からドローンスクールまで事業領域を広げる / 日本環境テクノ  
新築住宅の太陽光発電潜在ニーズを掘り起こす / 地域密着工務店

## ハウスメーカーのノウハウを活かしたZEBソリューション

# 中小規模ビルがターゲット

環境長期ビジョンで「気候変動の緩和と適応（地球温暖化防止）」を最重要課題に掲げる大和ハウス工業。2018年3月には、建設・住宅業界では世界で初めて『EP100』、『RE100』の双方に加盟。自社活動と事業の両面から温室効果ガス排出ゼロに挑戦する。大和ハウス工業の〈脱炭素〉への取り組みとは…。

### 中小規模ビルのZEB化が狙い

2016年に策定した環境長期ビジョン「Challenge ZERO 2055」に基づき、〈脱炭素〉への取り組みを強化する大和ハウス工業。

事業を通じた〈脱炭素〉では、エネルギー・ゼロの住宅や建築、街づくりを目指し、エネルギー自給住宅の開発、環境配慮型建築「D's Smartシリーズ」によるZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の拡大、スマートタウン・シティの展開。さらに、省・創・蓄エネルギーソリューションを提供する環境エネルギー事業にも取り組んでいる。

ZEBのベースとなっている「D's

Smartシリーズ」の開発は、2010年頃。パリ協定をきっかけに、展開、普及が伸びてきた。

大和ハウス工業・技術本部環境部長の小山勝弘氏は、「温暖化防止は、以前から我々の取組みの柱の1つでした。事業を通じた取組みということで継続的に進めてきたものが、今、ようやく市場性を持ち始めてきたと言えます」と話す。

2015年の国連におけるSDGs、続くパリ協定の採択で、世界中が低炭素から脱炭素へと舵を切りはじめている。そうした中、日本では、まだまだ民生用の建築部分の排出量が増えている状態。「D's Smartシリーズ」は、それを減ら

していくために必ず必要となる技術だ。

「市場は間違いなく拓けていると思っていますが、あとはスピード感。中小企業の方々まで、どれだけそうした意識を持って取り組みに参加するか。いずれにせよ、〈脱炭素〉が世界の合意事項である以上、そこへ向けた準備はきっちりしておきたいと考えています」（小山氏）。

事務所、工場、医療介護施設、幅広い用途に対応できるのが「D's Smartシリーズ」の特長。ZEBと言え、大型の最新のビルで行うイメージがあるが、大和ハウス工業では、中小規模のビルでの採用を狙う。

「圧倒的に多い中小規模のビルで実現しなければ、普及は難しい。最新の技術を使わなくても、普及型の様々な技術を組み合わせることで、ZEBの実現は可能なのです。そうしたものを普及型として開発し、広く展開していきたい…」（小山氏）。

### 電力自給自足オフィス

大和ハウス工業では、自社活動における〈脱炭素〉を展開し、そこで培った技術やノウハウを事業に活かし、事業に通じた〈脱炭素〉への展開に繋げている。2018年3月には、エネルギー効率および再生可能エネルギーに関する国際イニシアチブである『EP100』と『RE100』の双方に、建設業としては世界で初めて

#### 環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”

大和ハウスグループは、人・街・暮らしの価値共創グループとしてサステナブルな社会の実現を目指し、環境負荷“ゼロ”に挑戦します。



環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”